

第14回
千葉県建築文化賞
表彰作品集

2007年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



平成19年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、優れた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第14回目となる今年度は、53点の多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞3点及び建築文化奨励賞5点を決定いたしました。

授賞作品は、周辺の住宅街と自然環境に調和した景観を実現し、施設全体を通じて一体感・連続性を実現した幼稚園、広大な敷地に立地し、ユニバーサルデザインの視点から安心して安全な住みやすさを追求した集合住宅、自然豊かな工業団地内で円形断面屋根の個性的な外観を示し、環境負荷の低減を実現した事業所など、いずれも平成19年度の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

関係の皆様の情熱と新しい発想が込められたこれらの建築物は、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献するものと期待しております。

優れた建築物は、美しい街並みを実現するとともに、観光など地域の活性化にも貢献する社会の共有財産です。さらに、高齢化の進展や環境意識の高まりなどから、誰もが利用しやすい建築物、環境への負荷軽減を図った建築物の普及促進が課題となっています。

県といたしましても、こうした認識を踏まえ、誰もが安心して快適に暮らすことができる街づくりを600万県民の皆様とともに推進していきたいと考えています。

結びに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、選考委員、共催団体など皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

平成20年3月

1

目 次

千葉県建築文化賞について	1	海浜動物医療センター	7
選考経過と総評	2	千葉市美浜文化ホール・保健福祉センター	7
四街道さつき幼稚園	3	流山の家	8
エルプレシア	4	千葉県建築文化賞の実績 (応募点数・受賞作品数)一覧	8
タクボエンジニアリング 東金テクニカルセンター	5	応募(推薦)建築物一覧	9
Bridge-House	6	千葉県建築文化賞選考委員会	9
旭ヶ丘母子ホーム・保育園・児童家庭支援センター	6		

応募53点から8点入賞(選考経過と総評)

(選考経過)

第14回千葉県建築文化賞は平成19年7月の委員会で募集要領を定め、8月から9月中旬まで応募を受け付け、総数53点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より18点少なく、2年連続の減少となった。しかし、応募作品の水準は高く、住宅作品を中心に佳品が目立った。これらの作品を生み出した関係者の熱意が、千葉県における建築文化をさらに向上させていくことを期待したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門5点、ユニバーサルデザイン部門3点、環境部門3点を選んだ。次いで11月上旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞3点、建築文化奨励賞5点を表彰候補作品として決定した。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観に配慮した建築物		35	5	1	3
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		6	3	1	1
環境に配慮した建築物		12	3	1	1
合計		53	11	3	5

(総評)

景観に配慮した建築物

景観部門の選考にあたっては、建築物単体のデザイン水準と、まちの文脈への的確な応答の両者を総合的に評価した。応募35点は、いずれもこの点への配慮を感じさせるものであったが、今回は比較的小規模な建築物に好感の持てる作品が多かった。

建築文化賞の「四街道さつき幼稚園」は、住宅地に立地する幼稚園であり、既存建物を耐震補強した保育室棟と新築の園舎がL字形に園庭を囲む配置をとっている。木造平屋建ての建物は、深緑色を基調にして落ち着いた赤色をアクセント的に使い、周囲の町並みや林と調和した景観を醸しだしている。

奨励賞には次の3点選ばれた。「Bridge-House(ブリッジハウス)」は、中庭によって2世帯の住スペースを適度に関係づけるとともに、近所づきあいの拠点を提供している点が評価された。「旭ヶ丘母子ホーム・保育園・児童家庭支援センター」は、複数の機能をまとめあげ、隣接する公園と一体化して地域に開かれた施設となっている。「海浜動物医療センター」は、並木道に面するファサードをセットバックさせ、バス停に小広場を提供するなど、周辺景観形成への配慮を感じさせる。

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

この部門への応募は6点であり、昨年より半減した。これらの作品は、ユニバーサルデザインの浸透を実感させるものであったが、それだけに今後はより多くの応募を期待したい。

建築文化賞の「エルプレシア」は、325戸の集合住宅と集会所・立体駐車場を中庭のまわりに配置し、段差の解消、廊下幅員の確保など、バリアフリー化をはかるとともに、雨の日でも濡れずに移動できる、手を触れずにドアを開閉できるなど安心・簡単・便利に暮らすことのできる心配りがなされている。

奨励賞の「千葉市美浜文化ホール・保健福祉センター」は、異質な機能をシンボリックな建築にまとめあげ、双方のニーズに応えた安全で便利な施設になっている。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は12点であり、ここでも住宅を中心に比較的小規模な作品が環境への注意深い配慮を感じさせた。

建築文化賞の「タクボエンジニアリング 東金テクニカルセンター」は、太陽光パネル、屋根排気ファン、トップライト、雨水利用などにより環境負荷の低減をはかり、エントランスホールの天井ルーバーには地元山武杉の間伐材を使用している。円形断面屋根を活かしたデザインの質も高く評価された。

奨励賞の「流山の家」は、コンクリート打ち放しのコートハウスであるが、庇、縁側のスペース、風道など、日本の伝統的パッシブシステムを積極的に取り入れている。

選考の基準

- 千葉県内において、平成14年4月1日から平成19年3月31日までに完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰趣旨に沿っているもの。
- 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺の環境に充分配慮され、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②誰もが公平に、安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、社会への参加や日常生活が容易に出来るような環境整備がされているもの。
 - ③エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。